

神戸市立工業高等専門学校専攻科 学生員 ○高田知紀
 神戸市立工業高等専門学校 フェロー 橋本渉一

1. はじめに

今日の市街地においてその場所を訪れる人々にとっての憩いの場として、ポケットパークや滞留空間としての機能を持った公開空地の整備が積極的に行われている。それらは建造物がひしめき合う市街地にゆとりと潤いを与えるためのものであり、また人々の出会いの場としても重要な役割を担っている。しかしそれらの整備された空間が、必ずしも有効に利用されているとは言い難い。人々に好まれる滞留空間の条件を把握し、オープンスペースを有効に利用することによって、市街地に更なるゆとりが生まれるものと考えられる。

さらに、移動空間との明確な境界が存在しない滞留空間に設置されているストリートファニチャーやモニュメント、植栽や花壇は歩行者の目に直接的に映り、その都市の持つ歴史や特色を反映させた街路景観を形成する重要な要素であると考えられる。

本研究では、移動空間との間にフェンスなどの囲いによる明確な境界が存在しない滞留空間を開放型滞留空間と定義し、神戸市街地における開放型滞留空間の特性および有効性を明らかにすることを目的とする。

2. 調査対象地と研究方法

図-1 に示す神戸市中央区、元町～三ノ宮間の 18 ヶ所を本研究の調査対象地とした。これらの対象地を 12 時、14 時、16 時の計 3 回にわたって巡回し利用人数を調査した。利用人数調査においては着座者¹⁾のみをカウントした。その結果を空間評価の指標とし①空間構成、②周辺環境、③空間の持つ機能と履歴の以上 3 点の分析を行った。

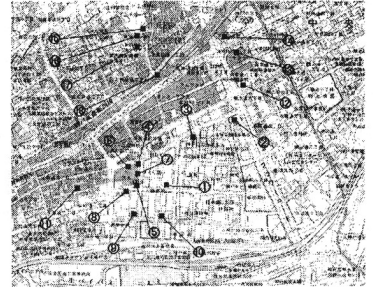


図-1 調査対象地

3. 調査対象地の利用状況

2001 年 11 月 24 日に行った現地利用人数調査結果を表-1 に示す。利用人数が最も多かった場所は南京町広場で、3 回行った調査の合計は 148 人であった。次に神戸国際会館の 115 人、そごう 2 階連絡口の 97 人と続く。NTT 神戸支店前と高架下ラ・バラダ前は 3 回の調査を通じて滞留者が 2 人、KCS 前は 1 人、新クレセントビルでは滞留者がみられなかった。

表-1 利用人数調査結果

番号	調査点名	着座可能人数 合計(人)	利用人数 合計(人)	利用人数合計 調査回数×着座可能人数
①	旧居留地 三井住友銀行前	56	34	0.20
②	花時計	20	20	0.33
③	新クレセントビル	6	0	0.00
④	大丸前時計台	24	34	0.47
⑤	旧居留地 3 番館	12	28	0.78
⑥	大丸北側ポルティコ	9	13	0.48
⑦	大丸東側ポルティコ	31	53	0.57
⑧	ジーニアスギャラリー	24	15	0.21
⑨	NTT 神戸支店前	16	2	0.04
⑩	旧居留地 KCS前	12	1	0.03
⑪	南京町広場	42	148	1.17
⑫	神戸国際会館内階段	92	115	0.42
⑬	そごう2階連絡口	48	97	0.67
⑭	三ノ宮オーバ前	80	54	0.23
⑮	生田神社前	20	19	0.32
⑯	東急ハンズ北出入口	12	14	0.39
⑰	東急ハンズ南出入口	6	17	0.94
⑱	高架下ラ・バラダ前	12	2	0.06

着座可能装置の数を考慮した利用頻度では、南京町広場、東急ハンズ南出入口、旧居留地 38 番館、そごう 2 階連絡口の順でその値が高いものとなった。

4. 空間構成

調査対象地 18 ヶ所を 10 タイプの類型モデルに分類し、表-2 に示す。利用人数、利用頻度ともに最も高い値となった南京町広場は、面積約 300 m²の広場型空間で車道には面しておらず、着座可能人数は 42 人となっている。国際会館は面積約 520 m²の歩道型空間で最大 92 人が着座可能なベンチが設置されている。そごう 2 階連絡口は歩道型空間で面積約 470 m²、48 人分のベンチが設置されている。そごう 2 階連絡口、また利用頻度におい

て高い値となった旧居留置 38 番館いずれも車道には接していない。ベンチ以外の設置されている街具については、利用頻度に対応した共通点はみられなかった。

5. 周辺環境

神戸市中央区の元町～三ノ宮周辺は商業地域であり、神戸の中心地として栄えている。そこで調査対象地周辺の卸売業、小売業、飲食業、サービス業の事業所数と従業者数²⁾、交通機関へのアクセス環境に着目し考察を行った。

旧居留置 38 番館、神戸国際会館内階段、そごう 2 階連絡口、大丸北側ポルティコ、大丸東側ポルティコはいずれも百貨店内に設けられた公開空地である。多様な目的地の可能性を持つ百貨店内に設けられた、これらの空間の利用頻度は高いことから、人々は目的地近辺の空間を選択しやすいといえる。また南京

町広場周辺では、元町通 1 丁目が事業所総数 167 件の内 68 件、元町通 2 丁目は 244 件の内 155 件が飲食業であった。さらに三ノ宮オーパ前は JR 三ノ宮駅、東急ハンズ南出入口は神戸市営地下鉄三宮駅に隣接しており、これら二つの空間にベンチは設置されていないが、利用人数調査ではオーパ前では 54 人、東急ハンズ南では 17 人という結果になった。飲食店の多様性と交通機関へのアクセス環境は、その近辺の滞留空間の利用頻度に大きく影響することが考えられる。

6. 空間の持つ機能と履歴

調査対象地の内、イベント会場としての機能を持っているのは三井住友銀行前、南京町広場、神戸国際会館内階段の 3 か所である。三井住友銀行前は、神戸祭りやルミナリエの際にイベント会場として利用される。南京町広場では、旧正月を祝う春節祭や中秋節に獅子舞や龍踊りがみられる。神戸国際会館内階段はベンチが階段と並行して設置されており、下でライブパフォーマンスなどのイベントが開かれる際にスタンドとなるように設計されている。

大丸東側ポルティコとジーニアスギャラリー(図-2)では、オープンスペースを利用してカフェテラスが設けられている。

また旧居留地 38 番館は旧居留地に残された近代洋風建築物の 1 つで、昭和 4 年にナショナルティバンク神戸支店として建設されたものの内部を、店舗として改装し利用されている。南京町広場は十二支の石造や東屋が設置されている。歴史性を有している空間はこの 2 ヶ所だけであった。

7. まとめ

本研究により以下の 5 つのことが明らかになった。①神戸市街地における開放型滞留空間を 10 タイプに分類した。②車道に接していない空間は選択されやすいが、人々の目的に応じた条件が優先される。③設置されている街具は空間が選択される大きな要因となりえない。④イベント会場としての機能を持つ空間は、非イベント時においても有効に利用されている。⑤歴史性を反映させた空間は少ない。

参考文献

- 堀口沙記子、杉田早苗、土肥真人 (2001) : 「着座装置と着座者の選好からみた街路空間における着座行為に関する研究」、日本都市計画学会学術研究論文集
- 神戸市 (2000) : 「神戸市統計書」

表-2 類型モデル図

	歩道型		広場型	
屋外				
	⑤生田神社前	⑬そごう2階連絡口	②花時計	⑪南京町広場
			④大丸前時計台	
		⑧ジーニアスギャラリー	⑮東急ハンズ北	
		⑨NTT神戸支店前		
		⑭オーパ前		
半屋外				
	⑩高架下ラ・バラダ前		⑫KCS前	⑪三井住友銀行前
		⑯東急ハンズ南		
屋内				
	③新クレセントビル ⑥大丸北ポルティコ ⑦大丸東ポルティコ	⑰神戸国際会館	⑤旧居留地 38 番館	

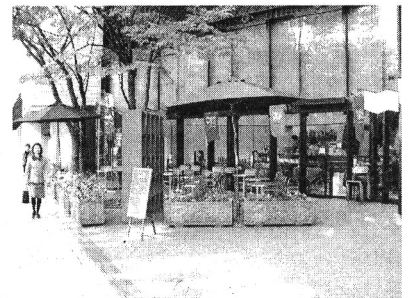


図-2 ジーニアスカフェ